

2020.9.6 年間第 23 主日

見えない教会

マタイ福音書 18 章 15-20

（そのとき、イエスは弟子たちに言われた。）「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なしなさい。

はっきり言うておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつなぐれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる。また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」

説教

きょうの福音箇所は読んでいて違和感というより嫌な感じがします。

6年前の説教（2014.9.07）を読み返してみたら、こんなことを書いていました。

マタイ 18 章を表面的に理解すると恐ろしい内容になります。一人の人に対してよってたかって責め立てて、その人が回心しなければ追放しなさい。二、三人でもイエスの名によって集まっているなら、それは主のみこころを現しているのです、その裁定には問題はありません。

福音をこう読み取れないこともありません。

イエスが生きている時代に教会はありませんでした。「教会」に申し出る、とか「教会」の言うことを聞き入れないなら、とイエスは語ることができま

せん。教会はイエスの復活、昇天のあとにできたからです。

見える教会、見えない教会という言い方があります。単純に会堂がある教会が見える教会で、会堂がない教会が見えない教会、わたしはそのような理解でいいと思っています。きょうは日曜日でキリスト教会は主の日の礼拝をおこなっています。世界に広がるキリストの教会に聖霊が注がれ、イエスさまも世界各地の教会でおこなわれている礼拝に招かれて出かけていることだと思います。見えない教会とはこのような意味あい、世界に広がったキリスト教会の霊的な集会なのだと理解しています。キリストの名のもとに集まった信じるわたしたちに豊かな祝福がありますように。

きょうのみことばはイエスのことばではなくマタイ教会での掟、刑法です。100年、200年、300年と迫害の時を経てついにローマの国教となったキリスト教会が積極的に取り込んでいったマタイ福音書の律法です。

それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なしなさい。マタイ 18:17

律法を否定し、異邦人の友となり、徴税人と食事をしたイエスがこんなことをいうはずがないし、そもそも教会なんてないのだからいえないのです。

このマタイ 18章は迫害されていたキリスト教が迫害するキリスト教に被害者から加害者へと変容していくときに、利用できるみことばです。わたしが感じる「いや」さはここにあります。

キリスト教はなんども改革をおこない分裂、分断を繰り返しながらいまの時代へと続いています。しかし、教会員の人数とお金、献金がベースとなるアメリカの流れを汲んだ日本のプロテスタント教会はコロナウイルスを脅威、敵としかとらえられず、政治と医学にたよるだけで教会独自の対処を見つけることができません。

世界の教会がこの状況を克服することができるよう、主の見守りの中、支えられますように。
